

人の動きのスピードを工夫したオフ・ザ・ボールの学習

日田市立高瀬小学校 岩崎 敬

これまでのボール運動では、ボール操作を簡易化して、少しでも多くの子どもたちに運動の楽しさや喜びを味わえるようにと、教具の工夫に頑張ってきました。



それでも力及ばず、「どうしていいかわからない」「うまくできない」などの、子どもたちの困りに対応できないことがありました。

そんな折に、先日福岡で行われた九州体育・保健体育ネットワーク研究会で、いつも勉強させていただいている愛媛大学の日野克博先生から、教具の工夫ではなく、人の動きのスピードに関する新しい視点を教えていただきました。

ボール運動では、いつどのタイミングで「何をすればいいかわからない」ということがあります。ゲーム中の状況の変化を止めることはできません。また、ボール運動は自己決定の要素が多すぎて、運動経験の少ない子にとって、とっても難しいものになっているのではないかといつも思っていました。



ボール操作	パス？
	ドライブ？
	シュート？
	キープ？
ボールを持たない時の動き	どこに動く？ (右？ 左？ 前？ 後？)

何をしたいのか 全然わからない！

※オフ・ザ・ボールとは

サッカーやバレーボールなどの球技において、ボールを持っていない時の動きやポジショニングのことを指します。

そこで、車いすラグビーをもとに、体育座りで移動するゲームをやってみました。すると。



速い

遅い



オフ・ザ・ボールの動き（ボールを持たない時の動き）とボールの展開に変化が出てきました。

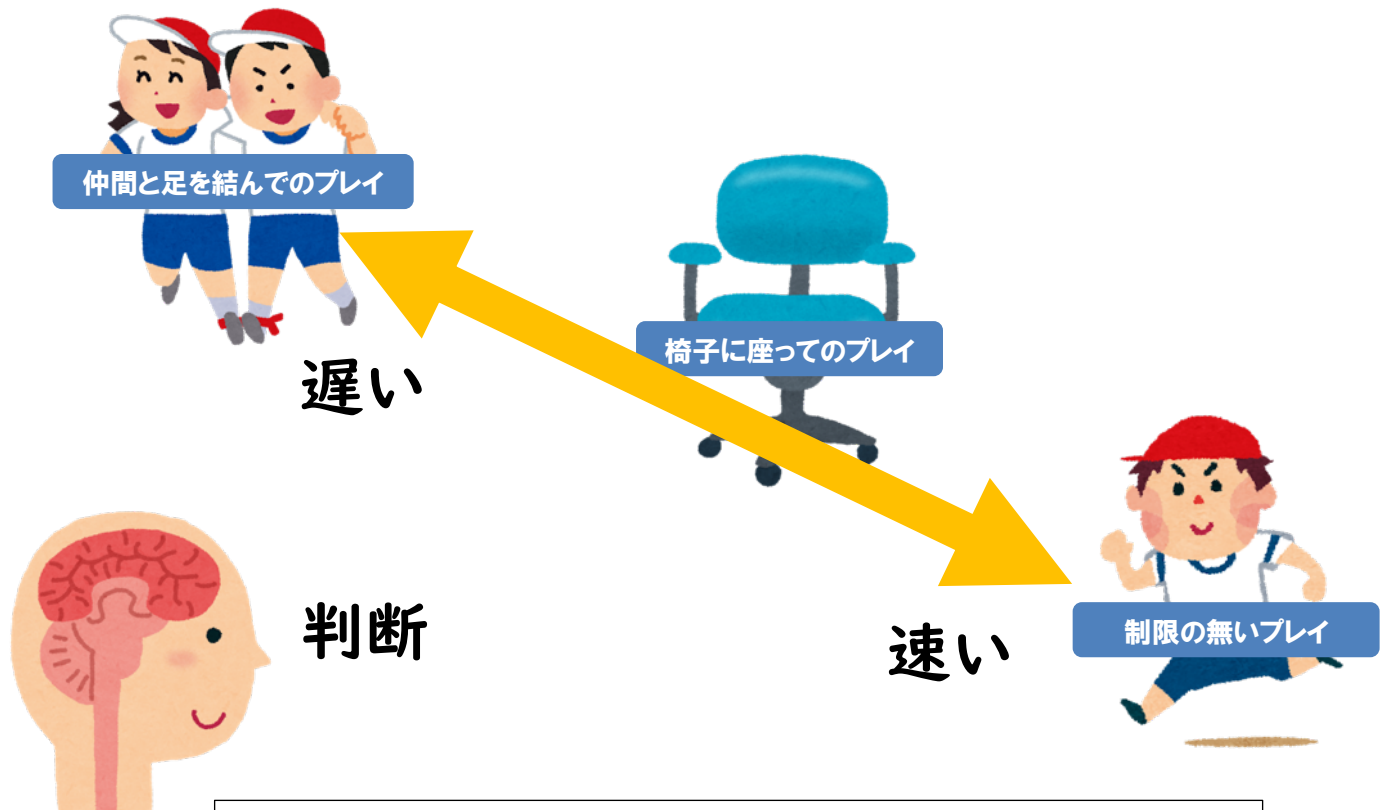
人の動きを「体育座り」に制限したことで、状況の変化が緩やかになり、低学年でも状況判断がしやすくなったのか？



「体育座り」の次は「乗馬スタイル」でラグビーをしました。



<人の動きのスピードの工夫例>



まだまだ研究の途中ではありますが、人の動きのスピード調整は、オフ・ザ・ボールの動きの学習に、どうも影響がありそうです。